

神奈川県水産技術センターメルマガ 118-126

- | | | |
|-------|--|-----|
| no118 | 2005年11月18日
お父さん、ありがとう！
漁師の目 | P1 |
| no119 | 2005年11月25日
ロープに広がる花畑！？
海中の早い流れ(急潮)の強烈なパワー | P6 |
| no120 | 2005年12月2日
ナガスミヤキ漁に思う
相模湾の水産資源の今 | P10 |
| no121 | 2005年12月9日
ロープワークの“技”を磨きたい
相模川で本当にあった怖い話し | P13 |
| no122 | 2005年12月16日
昼夜行性のハムスター
貴重な体験 | P15 |
| no123 | 2005年12月23日
冬の海のセレブさま
シラスアユの大と小 | P18 |
| no124 | 2005年12月30日
タナゴ・ドブガイ・ヨシノボリの微妙な関係
調査あれこれ3 | P21 |
| no125 | 2006年1月6日
新春のごあいさつ
「さかなグッズ」コレクション(その9) 大皿・大鉢について | P27 |
| no126 | 2006年1月13日
水産業普及指導員の現場紹介の2回目は、小型底びき網漁船の探検です
「よもやま話2」 | P29 |

神奈川県水産技術センター メールマガ118

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.118 2005-11-18

~~~~~

## □□ 研究員コラム

- ・お父さん、ありがとう！ (栽培技術部 工藤孝浩)
- ・漁師の目 (企画経営部 清水顕太郎)

### ○お父さん、ありがとう！

(栽培技術部 工藤孝浩)

アマモ場の再生事業では、これまでに子供を対象としたイベントを何度も行ってきましたが、今の小学校は色々あるようで、先生が休日の校外活動に児童を連れ出すのは難しいのだそうです。そこで、多くの場合はお母さんが子供につきそって来ます。

10月23日(日曜)に当所の陸上水槽で苗を育てるための苗床つくりと苗床への種まきのイベントを行いました。いつもとは雰囲気の違いがありました。お父さんが大勢来てくれたのです。

苗床作りで最も気を遣うのは、気泡の排除です。砂中の気泡は発芽率を著しく低下させるため、苗床づくりは常に海水を含んだ砂を扱う重労働です。今年は、購入した川砂を1ヶ月前から30袋の土嚢に詰めて海中に沈めておきました。それをスタッフが潜って引き上げると、お父さんたちが集まってきました。

土嚢の海水を切らさないよう一旦水槽に収容し、土嚢から砂を取り出し、腐葉土をふるいにかけて砂とブレンドし、プラスチックのコンテナに詰め、海水中でコンテナを激しく振とうさせて気泡を追い出します。この一連の力仕事にお父さん全員が取り掛かってくれたのです。

父親が汗して造った苗床に、子供たちが指で穴を開けて種子を数粒ずつ入れて埋めます。1つの苗床にまく種子は300粒、小さな種子を扱うのは子供の小さな手がいいのです。父子の共同作業によって、昼には40個の苗床全てが完成しました。

今回はドライブがてら城ヶ島にやって来たらしい家族が多かったので、無理やり運転手に駆り出されたお父さんもいらっしやっただけです。それでも、男手が必要な作業を見過ごすことなく、腕まくりで頑張ってくれました。その姿は、きっと子供やお母さんの目に頼もしく映った事でしょう。

「明日パソコン打てるかな」と腕をさすりながら家路につくお父さんの後ろ姿に思わず最敬礼です。「ありがとうございました。こりずにまた来て下さいね」。

## 写真 苗床つくり風景

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p782060.html>

### ○漁師の目

(企画経営部 清水顕太郎)

仕事柄、漁業者(漁師さん)といろいろと関わり合いになります。そこで驚かされるのが「漁業者の目の良さ」です。視力だけではない「なにか」があるんです。

いくつか例をあげてみますと、昨年か一昨年の秋口のことでした。台風が接近しつつある中、出漁していた漁船がぼちぼち時化を避けて港に戻り始めていました。そのとき私は三浦市宮川町の宮川大橋から、知り合いの漁業者と一緒に時化はじめた海を見ていました。そこで、その漁業者がかなり遠くをさして「あの辺りを漁船がこっちに向かって走っている」と言うのです。曇天であまり見通しもきかず、風も強まっており、そこかしこで白波が立っています。言われた辺りを目をこらしてよく見ても波は見えても漁船なんか見えません。

なぜそんなことがわかるのか？と尋ねたところ、「船そのものではなく、船が作る波を見ている」とのことでした。なるほど・・・と思い改めて見たところ、周囲と波の立ち方が違うのが私にもやっとわかりましたが、種明かしをしてもらえなかったら、その漁船がかなり近づくまでわからなかったことでしょう。

以上は私みたいな凡人でも種明かしをしてもらって何とか見えた・・・というお話でしたが、次は全くわからなかったお話です。

先日、相模湾に来遊するメジ（メジマグロ：マグロの幼魚）の調査のお手伝いで横須賀市長井の漁業者の船に乗り込んだ時のことです。調査は曳き縄という漁具(釣具)でメジを釣り上げ、標識をつけて再び海に放すというものでした。

曳き縄には潜航板というものが取り付けられ、その先に疑似餌がついています。これを適当なスピードで走らせた漁船で曳航するのですが、潜航板は水の抵抗で潜るとともに激しく動き、疑似餌を魅惑的に躍らせます。この疑似餌に魚（メジやカツオ・シイラなど）が食いつくと潜航板が反転して浮上し、魚がかかったことがわかるのですが、かかった魚が小さかったりすると潜航板が浮かんでこないことがあります。その漁業者はそんな状態がわかるのです。「魚がかかっているからあげてー」と言われて漁具を引きあげてみると、なるほど小さなシイラがかかっている・・・ということがたびたびありました。

何でそんなことがわかるのか？と尋ねたところ、「（海面上に出ている）釣り糸の動きが違う」とのことでした。なるほど・・・と、目を凝らして釣り糸を見張りましたが、私や主任の調査員はその違いが全くわからず、顔を見合わせて「????」という状態でした。

拙い文章で申し訳ありませんが、雰囲気だけでもおわかり頂けたでしょうか？とにかく、同じ景色を見ているとはとても思えない・・・という経験が結構あります。「漁師の目」には視力だけではない「なにか」があると思えます。修行を積んで何とか「漁師の目」に近づきたいもんだなあと思います。

---

#### [編集後記]

毎週のようにお知らせしておりますが、いよいよ明日19(土曜) および明後日20(日曜)に横浜市のみなとみらい地区で第25回全国豊かな海づくり大会が開催されます。当日は盛りだくさんのイベントが予定されていますが、20日の13:30からは同地区にあるぷかり棧橋で竣工したばかりの本センターの漁業調査指導船江の島丸(105 t)の一般公開が行われる予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

---

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）  
■配信の変更、解除は、こちらから↓  
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311  
ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン118

お父さん、ありがとう！



写真1 苗床づくり集合



写真2 苗床作り

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガ119

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.119 2005-11-25

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.119 2005-11-25

~~~~~

□□研究員コラム

- ・ロープに広がる花畑！？（相模湾試験場 石黒雄一）
- ・海中の早い流れ(急潮)の強烈なパワー（相模湾試験場 石戸谷博範）

○ロープに広がる花畑！？

（相模湾試験場 石黒雄一）

以前、このメールマガで「水中カメラロボットと苦難を共にして」（2004/5/14 no043）と題して、定置網のロープ類の調査に水中カメラロボットを使用する困難でとても辛い作業について書かせてもらいました。しかし、今回は辛いことばかりでなく時には気持ちを和ませてくれる水中の“花畑”について書かせていただきます。

相模湾には多くの定置網が敷設されています。この定置網は海底の礎とつないだロープで固定されているのですが、このロープを岩礁の代わりとしフジツボやムラサキガイといった多くの定着性生物が住み着きます。

これらの生物は漁業者にとっては大敵、放っておくとみるみる成長しロープが倍以上の太さになってしまいます。重さも増えるし流水抵抗も増える、漁具にとっては大きなストレスとなるためこれらの除去に多くの労力をつぎ込んでいます。フジツボなどは水深の浅い部分に多く付着するので除去することができますが、せいぜい水深30mぐらいまでです。

前振りが長くなりましたが、この除去のできない水深30mを越えるあたりから別の定着性生物が現れます。それは一般にソフトコーラルと呼ばれるもので、ウミトサカなどの八放サンゴの仲間です。

赤、オレンジ、紫、白などととても色鮮やかで、形も枝状だったり先端がカリフラワーのように房状であったりとまさに花畑のようです。やわらかい物体ですから水中カメラロボットを傷つけたりする心配もなく、一時の間我々調査員の目を楽しませてくれます。周りには小魚も戯れ魚にとっても調査員にとっても休息場になっています。

写真 ロープに付着したソフトコーラル

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582901.html>

○海中の早い流れ(急潮)の強烈なパワー

（相模湾試験場 石戸谷博範）

急潮(きゅうちょう、Kyucho)は津波(つなみ、Tsunami)と並ぶ国際用語で、黒潮系の海水の接岸や低気圧の通過などに伴って起こります。相模湾で定置網に被害が発生する急潮の流速は、今までの観測からほぼ0.7m/秒(1.4ノット)以上であることが分かっています。

相模湾で過去10年間に観測された定置網付近の最大流速は1m/秒(2ノット)です。2ノットは船の速さで言えば「非常にゆっくりだ」と考えられますが、2ノットの海水流がおよぼす力と同じ力を、風がおよぼすには、風速は30m/秒の暴風に相当し、強烈なパワーであることが分かります。

(参考)空気の密度をpa、速さをUaとした場合

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582902.html>

[編集後記]

11月も終わりとなり寒さが一段と厳しくなり、鍋料理が恋しい季節となりました。この時期のキンメダイは鍋料理には最高で食べれば心も体も暖まるはずです。風邪の予防にもなると思いますので、夕食の献立にお悩みの時にはいかがでしょうか。？

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）

■配信の変更、解除は、こちらから↓

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン119-1

ロープに広がる花畑！？

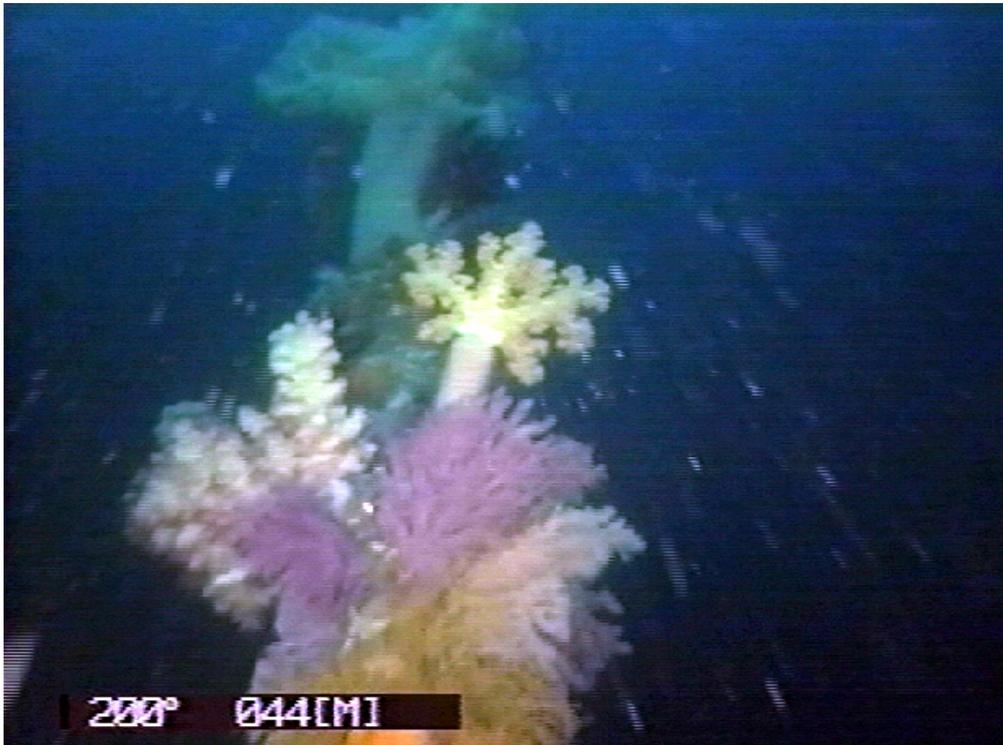


写真1 ソフトコーラル

[記事に戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン119-2

海中の早い流れ(急潮)の強烈なパワー

(参考) 空気の密度を ρ_a 、速さを U_a とした場合

$$\frac{1}{2} \rho U^2 = \frac{1}{2} \rho_a U_a^2 \quad \text{海水と空気の流圧(動圧)が等しいとすると}$$

$$\frac{U_a}{U} = \sqrt{\frac{\rho}{\rho_a}} \quad \text{速度比=密度比の逆数の平方根}$$

$$\frac{\rho}{\rho_a} = \frac{1.03}{0.001205} = 855 \quad \text{海水と空気の密度比(20°C)}$$

$$\frac{U_a}{U} = \sqrt{855} = \text{約 } 30 \text{ 倍} \quad \text{速度比は約 } 30 \text{ 倍}$$

∴ 流速 2 ノット(1m/s)の水流は風速 30m/s の風に相当する。

(参考)空気の密度を ρ_a 、速さを U_a とした場合

[記事に戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガ120

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.120 2005-12-2

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.120 2005-12-2

~~~~~

## □□研究員コラム

・ナガスミヤキ漁に思う

(相模湾試験場 川原 浩)

・相模湾の水産資源の今

(相模湾試験場 木下淳司)

## ○ナガスミヤキ漁に思う

(相模湾試験場 川原 浩)

20年ほど前にも小田原に勤務したことがあるが、強く印象に残っているのは、他の地域では漁獲も食べもしない魚が漁獲され地域で好んで食べられている地域固有の魚食文化である。

その一つがナガスミヤキである。クロタチカマス科のクロタチカマスのことであるが、名前のとおりタチウオを炭で真っ黒にした姿で、尖った口には鋭い歯が並んでいる。塩焼きやバター焼きにして食べるが、小骨が多く、やや独特の臭いがあり、私にはこの辺が一般受けしない理由とも思えたが、この個性が引きつけるのか地域の人には兎に角旨いという。

食文化とはそう言うものだと思う。当時漁が少ない時には市場で3千円の値が付くほどの高級魚であったことから、地域で熱烈ファンがいたことが分かって頂けるだろう。

このナガスミヤキは、相模湾では秋に出現し、夜に灯火をつけて、群れを水面近くに浮き上がらせて鋭い歯で糸を切られないよう真ちゅう線で針元をガードした立て縄で釣る。漁は11月の終わり頃まで続き、小釣りの漁師たちはこれで正月の餅代を稼ぐんだと言って、夕方になると忙しく支度をして、出漁していった。漁場は、大磯沖の瀬の海である。西湘バイパスを通ると20隻ほどの灯火をつけた船団が見え、秋の終わりを感じさせられたものである。

ところが、体長3mにもなるパラムツの出現によりナガスミヤキの魚群が形成されず、小田原を離れる平成にはナガスミヤキ漁は行われなくなり、寂しさを感じていた。このパラムツもかつては地域でスギウオと呼ばれ1本が内陸部の農業地域と米1俵と交換されるほど嗜好され、重要な釣り資源であったが、ワックス分が強く食べ過ぎると下痢症状を起こすことから、昭和45年に食用販売禁止となった魚である。

11月に入り小田原の魚市場でナガスミヤキが揚がっているのを見かけた。今年はこのナガスミヤキ漁が良く、1隻あたり100kg前後の水揚げがあり、10隻ほどが操業していると聞いて嬉しくなった。しかし、値段の方は、良い時で1000円/kg、少し漁があると200-300円/kgと20年前とは大違い。最近の魚価安の影響もあろうが、元々地域限定の魚で流通圏が狭い上に食べ慣れている高齢者が減り、若い世代に食文化が継承されていないことも原因のようである。

小田原の漁業といえば定置網が良く知られているが、実はこのような地域固有の魚食文化を創り出したのは、優秀な釣り技術に寄るところが大きい。今各地で行われているキンメダイの道具も小田原発と聞いている。

釣り漁業は、単価の高い魚でないと経営が成り立たず、営む漁業者もずいぶん少なくなったが、今年のナガスミヤキの好漁で昔からの小釣り漁師に混じり、遊魚船の乗り子として働く若い人たちもナガスミヤキ漁に出ているようである。伝統ある技術・文化が若い世代に継承されることを期待したい。

---

○相模湾の水産資源の今  
(相模湾試験場 木下淳司)

相模湾は沖を流れる黒潮の影響を強く受ける暖かい海です。そして1300種類を超える魚類が棲む豊かな海です。マアジ、サバ、ソウダガツオ、ブリ、カマスおよびイワシ類など水産上の重要な魚が多く回遊します。このため定置網漁業が大変盛んです。

定置網は水深70m程度までの沿岸海域に網を設置し、毎日網の一部を引き上げて魚を獲ります。大きな網は全長500mにもなります。定置網は魚が入るのを待って獲るため、魚を獲りつくす恐れが少ない漁法です。近年相模湾の定置網では、毎年1万トン前後の漁獲量があります。

魚種によって漁獲量が大きく変動する種類があります。マイワシは1984年には16,000トンも相模湾の定置網で漁獲されましたが、1990年代に入り大きく減少しました(図1)。またウマヅラハギも1991年を境にあまり獲れなくなりました。

相模湾から魚がいなくなってしまったのでしょうか？

そんなことはありません。マアジは1986年から漁獲量が急増し、現在まで相模湾の定置網を代表する魚となっています(図2)。またブリ(ワカシ・イナダなど未成魚を含む)の漁獲量も増加傾向にあります。

海の中では十年以上の長いスケールで、優勢となる魚種が交代します。相模湾の定置網は200年もの長きにわたり絶えることなく続いてきました。それは優勢となる魚の種類が変わっても、常に相模湾が豊かな海であり続けたからでしょう。この素晴らしい海を守り、次の世代に引き継がなければならないと思います。

---

[最近のホームページ更新情報(12月2日)]

---

[編集後記]

11月末に小田原沿岸で潜水調査をしたところ、おそろしいほど水が澄んでいました。調査船から下ろした透明度測定板は水深11mの海底に着いてしまいました。

おそらく透明度は20mを下らなかったでしょう。海に潜るとマアジ、イサキ、イシダイ、メジナなどが乱舞し、まるで竜宮城でした。

---

■水総研メールマガジン(毎週金曜日発行)  
■配信の変更、解除は、こちらから↓  
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

---

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311  
ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

---

[メルマガTOPへ](#)

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン121

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.121 2005-12-9

~~~~~

□□ 研究員コラム

- ・ロープワークの“技”を磨きたい
(内水面試験場 相澤 康)
- ・相模川で本当にあった怖い話し
(内水面試験場 蓑宮 敦)

○ロープワークの“技”を磨きたい

(内水面試験場 相澤 康)

川や湖で魚を取ったり、小型船を操船したり、潜水したりと内水面試験場では調査では色々な作業をします。フィールドでの調査を安全に確実にを行うためには、それらに併せて色々な“技”が必要になります。

その中で地味だけど結構重要なのが、ロープワークです。アンカーを結ぶ、漁具を固定する、水槽をトラックの荷台に固定する等、様々な場面でロープを使います。確実に結びつけ、簡単に取り外せる結び方でなくてははいけません。たくさんの結び方があり、ロープワークだけの教科書があるくらいです。

実際の現場では、漁協の皆さんに調査を手伝っていただくことがあります。漁具やロープを扱うことの専門家の人達ですが、調査員が作業をしている手元に注目しているようです。

こちらをジロジロ眺めながら、時として意味ありげにニンマリ……。調査員としてはそれだけでも緊張しますが、「その結びじゃ駄目だ！」と駄目出しされることもあります。でも、たまには「器用に結んだなあ。」と誉められたりして、その度一喜一憂しております。現場でこういうことでコミュニケーションをとるのは楽しいものですよ。

庄巻は湖調査でボートを運んだ時。バンのルーフキャリアにボートを載せて後、普通は専用のベルトで固定しますが、何とそのベルトが壊れてしまった。仕方がないのでロープを用いることにしました。

クラブ・ヒッチ、ボーライン・ノット、ハーフ・ヒッチング、シープ・シャンク等々、一般的に使われている結び方でも随分種類があるものです。結局これらの“技”でガッチリと固定、恙無く運搬することができました。

考えてみればこういうことは試験場の先輩に教えてもらったり、漁師さんの仕事っぷりを見ながら少しずつ覚えていったのですね。

しかし、ふと思うことがあるのですが、県のマークのついたバンに、見慣れない機材を満載して、おまけにルーフキャリアにボートを載せて走っている。一般の皆さんは何の職業と思うのだろう、と気になったりします。

○相模川で本当にあった怖い話し

(内水面試験場 蓑宮 敦)

怖い話しは、夏の風物というのが一般的なのに、朝方ふとんから出るのが辛い今時分になんだろ？と思われるでしょうが、編集の都合ということで、ご勘弁ください。今回は、私の仕事場でもある相模川で体験した本当に怖かった話しを紹介します。あれは、平成13年の夏のことでした。当時、相模川中流域に完成して間もない相模大堰という取水堰があり、その堰が魚類などに与える影響を調べる仕事をしていました。

その日もいつものように、試験場の研修生（卒業論文の研究をしている大学生）と二人でそこへ出かけました。ご存じの方も
あるかと思いますが、相模川では不法投棄を防止するため、一般車両は河原に降りられないように所々車止めのゲートがありま
す。でも、私たちは調査のため許可をもらっており、頑丈なゲートも鍵を開けて通行することが出来ます。

さて、そこです。今、思い出してもぞっとする気分です。いつも簡単に開けることができていたゲートの南京錠がその日に
限って全く開かないのです。だんだん焦りながら、南京錠を叩いたり、振ったり動作がただ事ではなくなっていました。その
時、『こらっ！おまえらここで何しとるんじゃっ！』と、飛び上がるようなドスの効いた声が飛んできました。

心臓が止まるほどびっくりして辺りを見ると、これまた震え上がるような人相風体の男が大声で怒っているのです。もしかして
「その筋の方？」、私は内心ビクビクしながらも、研修生の手前怯む訳にもいかず、少し声がうわずりがちに言いました。

「県の水産試験場のものです。魚類調査にきたのですが、ゲートの鍵が開かず困っていたところですよ」。すると、「その筋の
方？」は、「そうか。最近ゲートの鍵を壊して車を乗り入れる輩がいるんで、見張っていたんだ。」と、肩を怒らして言うでは
ありませんか。それでも、私の真剣な説明と公用車を見て納得した様子で、その場は事なきを得たのでした。

この事件以来、何事もなく調査が進んでおり、今では「こわーい」記憶として残っているだけですが、もし、あの時あの怖い
人が本物のその筋の方で、我々が見られてはまずい現場に居合わせていたのであったとすると、なんだかそっちの方が怖くなり
ますよね。ちなみに、問題のゲートは、その筋の事務所横の土手に設置されています。

[最近のホームページ更新情報(12月9日)]

[編集後記]

2005年も残り少なくなりました。今年も忙しい1年でしたが、大晦日には笑ってお蕎麦を食べましょう。

私事ですが、来年は年男ナリ<戌>

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311
ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メルマガ122

神奈川県水産技術センターメルマガ VOL.122 2005-12-16

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.122 2005-12-16

~~~~~

## □□研究員コラム

・昼夜行性のハムスター

(内水面試験場 井塚 隆)

・貴重な体験

(内水面試験場 原 日出夫)

## ○昼夜行性のハムスター

(内水面試験場 井塚 隆)

世の中、研究分野も多岐にわたれば、研究者の個性というのも多様です。皆さんは「研究者」と聞くと、どの様なイメージをお持ちでしょうか？私が研究を始めた頃は、とかく見たことのないような人たちばかりで、戸惑う毎日を過ごしておりました。

とある研究所に1年間修行に出る機会がありました。初日に研究室を見学させてもらった時のことです。少々薄暗い部屋の中にデスクが2列整然と並んでいました。でも、ただならぬ違和感があります。一番奥のデスクが三次元的に新聞紙で埋め尽くされているのです。きれいに積まれているのではなく、一枚ずつがクシャクシャで、まるでハムスターの寝床のようです。

ゴミ捨て場かと思いましたが、ハムスター氏はその中に居ました。肩から上だけ見えていたので怖々と挨拶すると、「オウッ・・・」とだけ返事をしてくれました。初日にして気が滅入りましたが、「きっと、寒がりなのだろう。防寒対策なのだろう・・・。」と観察結果から仮説を立てて帰路に就きました。初夏の汗ばむ日のことです。

ハムスター氏はいつ寝ているのか分かりませんでした。私がいくら朝早く来ても、終電で帰ろうとも、姿を見ないことはありません。ある日、実験が長引いて帰ることができなくなり、ハムスター氏の本当の寝床に泊めてもらうことになりました。あと数時間で朝日が昇る丑三つ時、徒歩3分で到着です。アパートの部屋にもやはり新聞紙があり、こちらはきちんと束ねて、床全面に敷き詰められています。目を盗んで掘り起こしてみましたが、ついに床を発見するには至りませんでした。

この上に寝転ぶと天井が近くて圧迫感を感じましたが、インクの香りが疲れた体に染み渡り、心地よく寝ることができました。早起きして3分間の散歩を済ませた後に、さっそく研究を開始したのは言うまでもありません。ハムスター氏はどうやら昼夜行性で、このように毎日、昼夜問わず研究に没頭しているようでした。

さて、私が研究者として初めて提唱した仮説は、やはり間違いでした。ハムスター氏は貝類の研究者だったのです。クシャクシャ新聞紙はマイマイに与える餌なのでした。私はその中にキャベツ葉の断片や糞が混ざっていた事実を見逃したまま推論してしまったのです。『研究には細やかな観察眼と慎重さが必要とされる』ことを初めて学んだのでした。

勿論、ハムスター氏が一流の研究者であることは記すまでもありません。図らずも初めて出会った研究者が氏であり、その強烈な印象は刷り込み現象の如く、それ以降も私が研究を続けるに十分な原動力を与えてくれました。

私は研究が好きですが、個性的な研究者もまた大好きです。

## ○貴重な体験

(内水面試験場 原 日出夫)

魚はおいしいですね。例えば、アユやヤマメを竹串に刺して粗塩を振って、炭火でじっくり焼く。そのうちに香ばしい匂いが漂ってくる。皮はパリッとして身はホクホクの塩焼き。食べたいですね。それから、ワカサギのフライ。上品でやわらかい白身、揚げたてのアツアツを食べると骨までおいしくいただけます。

このようにおいしい魚ですが、食材であるとともに生き物でもあります。生き物が死んでしまうと魚に限らず腐敗が進行します。こうなるとおいしい話はなくなり、恐ろしいことに……。今回は、私が魚病担当者となって間もないころ、川で魚類の死亡事故があり、死亡魚の病理検査を行ったときの貴重な体験をお話します。

ある日、電話が鳴りました。「○○川で魚が大量に死んでいます。回収した数尾を持ち込むので検査願います。」私は急遽、予定していた仕事を全て中止し、検査の準備をして検体の到着を待ちました。やがて、二重のビニール袋に保管された検体が到着しました。泥などが体表に付着しており、さっきまで川で横たわっていたことをリアルに感じました。たまたま、腐り果てて検査不能という検体がありますが、これは比較的新しく検査可能のように見えました。

運搬した職員から現場の状況を聞き取り、いよいよ検査です。その袋を実験室の流しに持って行き、ラテックス手袋を付け、開封しました。眼球は若干白濁、体表に過剰の粘液、そして、不快な匂いを若干感じましたが、気にしないようにして内部検査に移りました。このとき、今なら絶対にしないことを当時の私はしてしまいました。解剖しやすいよう検体の真上に顔を置き、なんのためらいも無く腹部にはさみを入れました。そして、さらに内臓の状態を見るために顔を近づけて開腹した瞬間。アレは来たのです！

まず、「ドンッ」という衝撃が鼻の奥に来ました。具体的に表現すると、ありえないことですがグーのパンチを鼻の奥に当てられた感じです。私は、アッパーカットを食らったボクサーのように、そのままのけぞり、顔をゆがめ、まだ鼻の奥にアレの存在を感じたまま一歩後退して衝撃に耐えました。しかし、ダメージは続きます。衝撃こそ消えましたが、今度はいつまでもアレが鼻に残るのです。夕刻でお腹がすいていたのですが、一気に食欲が無くなり、今日はもう何も食べたくない、食べられないという状態になりました。

匂いのことを臭気といいます。あれは「臭撃」と表現したほうが良いでしょう。これは、ノンフィクションです。数年前の体験が今も事細かに思い出せる。そのくらいのインパクトでした。私はこの貴重な体験から、それ以降検体を開腹するときは息を止め、絶対に顔を真上に置くことはありません。そう、絶対に！

-----  
[最近のホームページ更新情報(12月16日)]

-----  
[編集後記]

12月に入り江ノ島沖水深20mの場所で潜水調査をしたところ、その水温は19度。翌日、おなじ江ノ島の水深6mの場所で潜水すると「つ、冷たい!？」

あわててダイビングコンピュータを見たら水温は16度。3度違つとじわじわ寒さが身にしみてくる。頭も冷やされ冴えわたる(?)

-----  
■水総研メールマガジン(毎週金曜日発行)  
■配信の変更、解除は、こちらから↓  
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

-----  
[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガ123

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.123 2005-12-23

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.123 2005-12-23

~~~~~

□□ 研究員コラム

・冬の海のセレブさま

(相模湾試験場 北沢菜穂子)

・シラスアユの大き

(内水面試験場 相川英明)

○冬の海のセレブさま

(相模湾試験場 北沢菜穂子)

海のボート釣りというと、陽光まぶしい初夏に親子連れやカップルさんがキス釣りに興じているようなのどかな光景を思い浮かべられる方が多いかと思ひます。しかし、ディープにはまりこんでしまった場合・・・。

狙う魚はマゴチ、マコガレイ、イナダ、アマダイ、マダイと遊漁船顔負け。水深や底質を把握するためにポータブル魚探を携行し、ポイントに確実に到達するためにGPS携行。果ては、魚探とGPSを駆使してマイ海図まで作ってしまわれる方もおられます。

いずれにせよ、手漕ぎボートは自分が船長。自由の代わりに重い自己責任が伴う世界。気象や波浪、地元の漁業にかかるルールを事前に調べ、安全に楽しく遊んで下さいね。

さて、ずいぶん寒くなりました。この季節の狙い物はやっぱり東京湾のマコガレイでしょう。40cm近い肉厚の体にたくさんの卵。まさに冬の沿岸のセレブ様。

ところがこのセレブ様、なかなか気難しく、釣り人を坊主地獄に誘われるお方。ただ、セレブ様がお気に召すよう、仕掛け・ポイント・誘い等、様々な工夫を凝らした場合、5枚6枚と掛かってくる場合もあります。釣りに行けない時間も楽しめるということもあってか、各人各様のオリジナルの仕掛け作りに精を出す方も多くいらっしゃるのがカレイ釣りの特徴。

そのため、マコガレイ狙いの男性の一部は、セレブ様に気に入ってもらえる仕掛けを作るべく、スワロフスキービーズを買うために手芸店に通い、針に鳥の羽を飾り、ラメマニキュアを奥さんの化粧棚からこっそり取り出すか100円ショップで購入して、針のチモト(=結び目)に塗りたくっておられます。(だから、ここ数年、赤と銀ラメのマニキュアの減りが妙に早かったのね。)

このような方々の影響を受け、最近私も、爪に飾るラインストーンを見ると(疑似餌に貼るといいんじゃないかな)と考え、白蝶貝やオパールを見ると(カワハギ釣りの集魚板みたい)と思うようになってしまいました。

最近聞かれたこと・・・「夜光マニキュアってないの?」。無いと思いますが、作ればブレイクするかも知れませんね。薄暗いバーで女達の整えられた爪が蛍光を帯びて光っているのも乙なものですし、海底のセレブ様も気に入って下さるでしょう。

○シラスアユの大き

(内水面試験場 相川英明)

試験場では9月中旬に人工産アユの採卵を行います。卵は、およそ10日後にふ化し、ここから次の世代のアユの飼育が始まります。ふ化したばかりのシラスアユには最初は、動物プランクトンを与え、ふ化10日後から配合飼料を与え始めます。この時点で、シラスアユがしっかり配合飼料を食べてくれるか否かが、その後のアユの生き残りを大きく左右しますので、シラスアユが順調に配合飼料を食べてくれると、まず、ひと安心です。

そして、配合飼料をメインの餌として、シラスアユの飼育を進めていきます。同じ日に採取した卵から生まれたシラスアユでも、少したつと成長に偏りが生じ、池の中で大きいシラスアユと小さいシラスアユが生じてきます。この段階では一見、シラスアユの餌喰いも成長もよく、すべてが順調に見えます。しかし、実は、シラスアユのうちには大小の差がつきすぎると、大きいシラスが小さいシラスを食べてしまうのです。このような状態になると飼育しているシラスアユの尾数が見る見るうちに減ってしまい、研究材料が確保できなくなります。

そこで、シラスアユの大と小を出さないための飼育技術が必要となり、まず、手撒きによる餌やりで対処します。池に均一に餌を撒くこと、シラスアユの成長差が認められたら、特に小さいシラスアユへ餌が行き渡るよう餌を撒くこと(小さいシラスアユは池の端にいることが多いので、そこへ重点的に餌を撒く)などを行います。この餌撒きは地味で目立たない作業ですが、これができないと「魚飼い」としては一人前と認めてもらえません。

また、ふ化からおよそ60日経過した時期には大小の差が明らかになるので、その時点で、池からすべてのシラスアユを取り上げ、選別を行います。

この選別ではサイズを揃えるばかりでなく、実際に取り上げることでシラスアユの正確な数量を把握することができます。池に収容した卵の数、餌の食べ具合などからある程度、シラスアユの数量は予想できるのですが、やはり計数の方が正確です。ここで、取り上げる前に自分が予想したシラスアユ数量と実際に取り上げた数量を比較し、「予想数量とだいたい合っていた」「予想よりちょっと少なかった」など密かに自分のアユ飼育技術の熟練度を判断しています。今年も一部の人工産アユの選別が終わりました。さて、実際、自分の予想数量と取り上げた数量が一致したでしょうか。それは、担当者の秘密とさせていただきます。

[最近のホームページ更新情報(12月23日)]

[編集後記]

この季節、相模湾の海象は変わりやすい。出勤時に車窓から海の様子を確認し、よっしゃ今日は沖へ調査に行けそうだ、予報も悪くないし、と思う。

ところが出港する頃には水平線がギザギザになっている。沖は吹いてきたらしい。間もなく我が調査船にも強い西風が吹きつけ海は真っ白に。漁船も帰っていく。反転、今日は港に戻りましょう・・・。

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311
ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

[メルマガTOP](#)へ

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン124

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.124 2005-12-30

~~~~~

## □□ 研究員コラム

- ・ タナゴ・ドブガイ・ヨシノボリの微妙な関係  
(内水面試験場 勝呂尚之)
- ・ 調査あれこれ3  
(内水面試験場 山本裕康)

## ○ タナゴ・ドブガイ・ヨシノボリの微妙な関係 (内水面試験場 勝呂尚之)

ミヤコタナゴ(写真1)と言う魚、昔は関東地方に広く生息していました。しかし、生息地減少のため、国指定の天然記念物に指定されました。本県でも相模川・鶴見川などにいましたが、現在は完全に自然水域から姿を消しています。その原因は、川の水の汚れとか、川のコンクリート化等、さまざまですが、最大の要因は、淡水産の二枚貝がいなくなったことです。

本種はドブガイやマツカサガイなどの二枚貝に卵を産みます。貝の殻ではありませんよ。長い管(産卵管という)を使って、生きた貝の鰓の中に産卵します。ふ化した赤ちゃんタナゴは、目も口もなく、まるでウジ虫のようですが、貝の中で1月ほど生育し、泳げるようになると自力で貝から出てきます。

タナゴにとって貝は絶対必要な自然のゆりかごなのです。他方、貝にも魚が必要です。ドブガイの仲間は、赤ちゃんの時に魚に寄生します。自分の子供たち(グロキジウム幼生)を鰓内でふ化させ、付近を通る魚たち、主にヨシノボリ類にくっつきます(写真2)。1週間くらい寄生した後、魚から離れ、親と同じように川底で生活します。

現在、内水面試験場ではミヤコタナゴの保護・復元に取り組んでいます。既に人工的に増やす技術は確立し、大量生産が可能となりました。最近、失われた生息地を復元するため、試験場の水辺ピオトープや横浜市内のため池で放流試験を実施しています。

タナゴ・ドブガイ・ヨシノボリが微妙な関係を保つ環境を復元するわけですからたいへんです。しかし、各試験池とも毎年、多数の稚魚が浮上するなど研究成果があがっています。皆さんが自然水域でミヤコタナゴに会える日もそう遠くないことでしょう。

ミヤコタナゴを自然水域に復元すること・・・それはまさに「神のわざ」、河川の生態系を復元することなのです。

写真1 ミヤコタナゴ雄  
写真2 ヨシノボリの鰓に寄生したドブガイの幼生  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p781682.html>

## ○ 調査あれこれ3 (内水面試験場 山本裕康)

メルマガ読者の皆様は、カマキリという魚はご存知でしょうか? アユカケともいわれるカジカの仲間です。(神奈川県では絶滅危惧種に指定され、当场でも保護に努めています。)なぜこのような質問をしたかということ、勤続3年目の1999年秋に、この魚とある調査について私の認識が変わる出来事があったからです。

毎年、行っているアユ資源量調査の中にアユの産卵場調査と降下量調査というものがあります。産卵場調査は地味な、降下量調査は、寒くて眠い調査というのが、それまでの認識でした。

簡単に調査の内容を説明しますと、産卵場調査とは言葉通りにアユが産卵した場所、時期などを把握するため、川底の砂利をタモ網ですくい取って産着卵を確認していくものです。降下量調査のほうは、川から海へ下る仔アユの量を把握するため、河口から少し上流の地点で夕方から朝にかけて夜間にプランクトンネットを一定時間間隔で設置・回収して仔アユを採捕する調査です。この説明で私の認識が少しは想像できますでしょうか？ 時季も晩秋から冬ともなると冷え込みが厳しくかなり堪えるのですよ。

話をアユカケに戻しますが、アユカケの調査もこの時季ではなく、夏の夜間に箱めがねとライトを使用して川の瀬を横一列になって、下流から上流に向けて確認していく人海戦術をとっていたのですが、1尾のアユカケを見つけるのも難しかったです。そのような経験上の認識が、この年に変わったのです。

この年の相模川では漁業組合員の方から、釣りや投網でたまにアユカケらしき魚が捕れるという情報を得てはいたのですが、アユカケ調査ではそれほどでもない結果でした。そのような中、降下量調査の休憩時間に気まぐれで、何か魚がいないかなーと、箱めがねとライトで探索を開始してまもなく、1尾目のアユカケを発見、捕獲に成功しました。立て続けに4、5尾のアユカケを捕獲。魚捕りが好きな私としては、寒くて眠いことさえ忘れるほどの事件でした。

この年の捕獲数は50数尾に達し新聞記事にもなりました。昼間に行う産卵場調査時にも、石に隠れていたアユカケを砂利と一緒にすくいあげ、「アユカケが捕れた！」の第一声は同行した職員に実物を見せるまで信用されませんでした。この時の捕獲地点は、今までに捕獲記録のない上流地点でもあり、自慢の出来事です。（補足ですが、本来のアユ資源量調査も手抜きはせず、しっかりとやっています。）

当场H.Pのカマキリ（アユカケ）のページ

<http://www.agri-kanagawa.jp/naisui/fishfile/kamakiri.html>

写真1 産卵場調査で混獲されたアユカケ

写真2 産卵場調査風景

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p781685.html>

-----  
[最近のホームページ更新情報(12月30日) ]

-----  
[編集後記]

平成17年の最終号をお届けいたしました。一年間ご愛読ありがとうございました。

平成18年も水総研メールマガジンをよろしくお願いたします。 </P>

そして来年の海と川の安全と豊漁を祈願！ </P>

-----  
■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）

■配信の変更、解除は、こちらから↓

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

-----  
[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン124-1

## タナゴ・ドブガイ・ヨシノボリの微妙な関係



写真1 ミヤコタナゴ雄



写真2 ヨシノボリの鰓に寄生したドブガイの幼生

[記事に戻る](#)

### 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン124-2

## 調査あれこれ3



写真1 産卵場調査で混獲されたアユカケ



写真2 産卵場調査風景

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガ125

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.125 2006-1-6

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.125 2006-1-6

~~~~~

□□新春のごあいさつ

水産技術センター所長 岡 彬

□□研究員コラム

・「さかなグッズ」コレクション（その9） 大皿・大鉢について
管理部 亀井 正法

○新春のごあいさつ

水産技術センター所長 岡 彬

新年明けましておめでとうございます。

水産技術センターメールマガジン愛読者の皆様には、お元気でよいお正月をお迎えのことと存じます。

当メルマガも創刊から2年半が経過し、今回で125号を迎えることができました。この間、読者の方も着実に増加し、今では635名の方に毎回配信させていただいています。読者の皆様には、記事の内容等につきまして、ご意見やご要望をお寄せいただき、ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

現在の記事は、研究者らの輪番によるコラムが中心ですが、その内容はバライティに富み、好評ですので、今しばらく続けてもらいたいと思っています。こんな記事もというようなご要望がありましたらお知らせください。

さて、昨年は、4月1日の組織改正に始まり、10月21日には7代目江の島丸の竣工、そして11月20日には第25回国豊かな海づくり大会かながわ大会の開催と当所にとって大きなイベントがいくつも重なった記念すべき年となりましたが、それだけにあわただしく過ぎ去った1年でもありました。

今年は今のところ、そのような大きな行事は予定されていませんので、じっくりと腰を落ち着けて本来の職務に邁進できるものと考えております。

景気の回復はみられますが、水産業を取り巻く環境は、燃油が高騰する中、魚価が低迷するなど大変厳しい状況が続いています。

今年も所員一同神奈川の水産業が少しでも元気になるよう、水産技術の開発・指導並びに各種情報の提供等に努めてまいりますので、ご声援をお願いいたします。

年頭にあたり、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げ、新春のごあいさつといたします。

○「さかなグッズ」コレクション（その9） 大皿・大鉢について
管理部 亀井 正法

前回の「小皿・小鉢」編で決めたことですが、大皿とは？ 使用イメージとして、カレー用、焼き魚用、刺身盛合わせ用、フルーツ盛合わせ用などです。大皿には、しばしば見られるのですが、美術品として床の間に飾るようなものがあります。この手は、当初からのポリシーとして収集していません（できません？）。

皿・鉢そのものが魚の形をしたものと図柄・デザインとして魚が描かれているものに大別できるのは、小皿・小鉢と同じです。魚の形をしたもののコレクションに関しては、陶芸を趣味とする友人T氏の協力が多大です。なにしろ、私のわがままな注文どおり製作していただいておりますから、ありがたいことと思っています。しかも、出来上がった作品は、世界でただ一つのオリジナル皿ですから感激ものです。彼に嫌われなければ、これから先も感激もののコレクションが増えてゆくチャンスは期待できそうです。

市販品は例によって漁るしかありません。しかし、大皿・大鉢に出会うには、なかなか大変です。やっと出会った大皿・大鉢も私の経験では、むしろ、超高価な工芸品であったことが多かったように思います。

さて、最近のことですが、浅草の「かつば橋」道具街で、久々に「これは！」というものを見つけました。それは、焼き魚用の長細い皿です。意外なことですが、焼き魚用皿には、魚の絵を描いているものが極めて少ないのです。大抵は無地か、ごくシンプルに端の方に草花がちょこっと描かれているものがほとんどです。私のコレクションの中でも、どんとサンマー匹が描かれているものが唯一でした。考えてみれば、焼き魚を食べ終えて、また魚の絵が出てきたではクドイのでしょうか。ところが、今回のお気に入り皿は、なんと一匹どんと魚の骨の姿が描かれているのです。骨まできれいに食べてとのシャレなのではないでしょうか？

また今晚の肴も、お気に入りの皿で、焼き魚（サンマか、カマスか、ホッケの開きか）になりそうです。

亀井「さかなグッズ」コレクション（その9）大皿

http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/pic_125.html

さかなグッズコレクション：バックナンバー一覧

http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/kamei_index.asp

[最近のホームページ更新情報(1月6日)]

[編集後記]

「光る海 未来を映す 大きな鏡」は、昨年の秋に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り開催された全国豊かな海づくり大会の大会テーマです。環境を保全し資源を増やそう、海を再生させようとのメッセージを大都市横浜から発信できたことは意義深く、予想以上の人出もあって大会は成功裏に終わりました。

この余勢をかって、これに肖って、本年は相模湾や東京湾で大漁旗が靡いてくたらと神頼みにも似た心境であります。

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）

■配信の変更、解除は、こちらから↓

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガ126

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.126 2006-1-13

-- Fish-mag >°))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.126 2006-1-13

~~~~~

## □□研究員コラム

・水産業普及指導員の現場紹介の2回目は、小型底びき網漁船の探検です。

企画経営部 鎌滝 裕文

・「よもやま話 2」

企画経営部 村上 哲士

○水産業普及指導員の現場紹介の2回目は、小型底びき網漁船の探検です。

企画経営部 鎌滝 裕文

私の受け持つ第1担当区は、横浜市鶴見区から横須賀市津久井までと東京湾をほとんど網羅しています。どのような漁船があるのか読者の皆さんに紹介していこうと思います。今回は、小型底びき網漁船を紹介します。小型底びき網漁では、主にシャコやマコガレイといった魚をとっています。文字通り、海底に網を下ろして船で網をひくという漁業です。横浜市漁協柴支所、本牧支所と横須賀市東部漁協横須賀支所、走水大津支所にこの漁船はあります。

小型底びき網漁船は、船体の前部に操縦室があり、中央部分に網をひきあげるための大きな“やぐら”と巻き上げ機（ウインチ）があります。そして後部は作業をするスペース、網を積んでおくスペースとして広がっています。

1隻だけで、網をひくので、網の口が狭くならないようにブームと呼ばれる金属の棒を網口の前方につけて、網をひきます。網をひきあげやすいように後端部は海面に対して開放的になっています。

小型底びき網漁業は、非常に効率のよい漁業であるため、いろいろな規制があります。そのひとつが主機関のディーゼルエンジンです。ターボやスーパーチャージャーと言ったエンジンの馬力を高める装置はつけられなくなって、底びき網用の認定を受けたエンジンしか搭載できないようになっています。

小型底びき網漁船は、船体の中央部に“やぐら”があることと操縦室が前方にあるので、非常に特徴のある漁船です。読者の皆さんも漁港へ出かけたときは是非確認してみてください。

下記のURLから写真を見ながら文章をもう一度読んでいただくとわかりやすいです。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582890.html>

○「よもやま話 2」

企画経営部 村上 哲士

早くも2回目の順番が回ってきてしまいました。皆様にはまた回想にお付き合いしていただくこととなりますが、しばしのご辛抱をお願いします。

前は測量後の図面書きで四苦八苦で終わったかと思えます。図面は何とか書き終えて、その後の仕事については先輩の担当でしたので私はお手伝いでホッとしました。

しかし、会社はそんなに甘くはない。私には私の分担があり、今度は漁業許可を出すにあたっての調査・調整という仕事が残っておりまして（調整班の「お仕事」です）。まア新人が任されている漁業許可ですのでそんなにデリケートなものはありませんでしたが、初めての者には難しいだの簡単だのは関係ありません、大変なのは同じでした。

さて、許可には一斉に更新されるものもありますがそうでないものも多く、有効期間の切れる前に調査を行い調整した後に申請してもらい許可が出るのが一連のパターンです。調査に行くには事前に日程調整を行わなければなりません、良くわからない人間がやっているのですから、こちらと漁業者の間に入って細かい調整をしてくださった当時の漁業協同組合の職員さん達にはご迷惑かけたと思います（今でもかけてるかしら・・・）。

基本的に調査には二人以上で出向きましたので、私一人で行くことはなく、その点では心強いものがありました。しかし、先輩達が出かける時にはお供することも多く、週によっては事務所に居ないほうが多い場合もあって（事務所に一人で残るのも心

細いですけど）、久しぶりに出てみると書類の山（書類は一番下っ端から回り始めます）で、手順の悪い新米はこれを片付けるのに一苦労という状態でした。

今回もやっぱり足手まといの話か・・・。

いつかは格好いい話がでてくるのでしょうか・・・。

---

[最近のホームページ更新情報(1月13日)]

---

[編集後記]

暖冬の予報が一変し、日本海側は一ヶ月も暴風雪が続き、積雪が4mを超えようかという厳寒の真っ只中。

ところが、今週末には急激に昇温して雪崩れや融雪洪水の恐れがあるという。

大きな災害が起こらないといいのですが。

---

■水技センターメールマガジン（毎週金曜日発行）  
■配信の変更、解除は、こちらから↓  
<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/>

---

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311  
ご意見・お問い合わせ：[fish.415@pref.kanagawa.jp](mailto:fish.415@pref.kanagawa.jp)

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水総研 メールマガジン

## 小型底びき網漁船の探検



柴漁港の小型底びき網漁船です。船体前方にある操縦室と中央部にある大きな“やぐら”が特徴です。船体後部は、広がっています。



操縦室内部です。小さな神棚もあります。ふたつ画面がありますが、左がナビゲーションシステムで右が魚群探知機です。



船体中央部の大きな“やぐら”です。取材した小山さんの船は軽量のチタン合金製でできています。



網をあげるための大きなウインチです。ちょうど“やぐら”の下にあります。



船体後端部は網を海へ出しやすくするために金属製の部品がつけられ、開放的になっています。斜めに見えるこの棒がビームと呼ばれるものです。



エンジンです。手前に排気管（白色部）が見えていますが、ターボなどの過給機はついていません。

ん。つけられないように排気管の接続部分が封印されています。



船の先端部分です。この部分をバルバスパウと呼びます。小型船では珍しいですが、小型底びき網船ではポピュラーです。船体の浮力が得られるそうです。

柴漁港の小山さんに船を見せてもらいました。昨年の漁はよくなかったねえと言っていたのが印象的でした。今年はいい漁になることを期待しています。。

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。